

嶋田智明(編)

「概説理学療法」

大峯三郎

(産業医科大学病院リハビリテーション部技師長)

理学療法士は理学療法学を基盤として、その専門性を臨床・教育・研究の場に提供していく義務と責任を持たされている。さらにその専門性は科学的根拠、つまりサイエンスに裏付けされたものであり、より質の高い技術であるアートに基づいたものでなくてはならない。これらをバックボーンとして、リハビリテーション医療、あるいは保健・福祉の分野でチーム・ワークを発揮しながら社会的にも貢献して行かなければならない。そのために、理学療法士には幅広い領域での専門的知識が求められており、これらに応えられるべき資質を常々備えておく必要がある。

本書はこのような視点から理学療法士を目指す学生を対象とした教科書として、理学療法の本質や理念、あるいは原点などについて、わかりやすくクリアカットに記述されていながら、しかも要点はしっかりと押さえているところはさすがである。本書は第一部として理学療法士の根幹とも言える「専門職としての理学療法」についての15項目、第二部ではわれわれの具体的な守備範囲とも言える「理学療法の領域」につい

ての7項目の二部構成となっている。教科書としての性格を持たせているために、まず学習目標を項目ごと、最初に掲げて何をどのように理解すべきなのかを明らかにしており、さらに内容についての要点をエッセンスとして掲載している。各項目の最後には、CLOSER-LOOK BOX, RELATED STUDY, FURTHER READINGとして深く掘り下げて思考する契機となる関連する内容の解説、自己学習の方向性あるいは有益で参考となる他の推薦書などが紹介されており、理学療法をより理解するための学習への配慮も十分になされている。学生にとって馴染みの少ない用語については注釈解説が追記されていることや、随所に直感的でわかりやすいイラストなどが用いられており、これらも理解を深める一助となっている。

教育に永年携わってきた編者あるいは執筆者のそれぞれの情熱、思い入れや意気込みを感じ取ることのできる教科書であり、本書を読み進めるうちに理学療法の奥の深さ、その可能性に改めて気づかされる思いである。本書は学生のみならず、教育に情熱を抱く理学療法士にも是非とも一読を勧めたい1冊である。

●B5判・350頁・2色刷

定価 5,250 円(本体 5,000 円+税 5%)

2007 年 文光堂・刊